

いずみ

令和6年度 2・3月合併号
図書委員会 2年9組
秋山紗帆 ・ 井上鷹太郎



今年度も残すところあとわずかとなりました。皆さんは、どんな本を読みましたか？
あまり読めなかった…という人も、いつか本に書かれた言葉が、情熱が、あなたを支えてくれる日が来る
かもしれません。ぜひ、朝読書の時間だけでも、本を読んでみてくださいね。



《第36回読書感想画中央コンクール愛媛県審査》

第36回読書感想画中央コンクール(毎日新聞など主催)の愛媛県審査があり、本校の生徒4名が見事入賞
しました！

優秀賞

2年 佐伯みどり
題名 『旅人』 書名 『アルケミスト』

優良賞



2年 大原叶音



2年 木村華萌



1年 品川晴香

《直木賞の紹介》

「直木賞」は正式名称「直木三十五賞」といって、大衆性を押さえた長編小説作品あるいは短編集に与えられる文学賞で、1935年に芥川龍之介賞とともに創設されました。直木賞、芥川賞ともに年2回、7月、1月に受賞作が発表されます。また、受賞作として該当する作品がない場合は、「該当なし」ということもあります。

今年の1月に、伊与原新さんの『藍を継ぐ海』が受賞したと発表がありました。伊与原さんはテレビドラマにもなった『宙わたる教室』の作者でもあります(読書感想文の課題図書にもなりましたね)。知っている方も多いのではないのでしょうか。

『宙わたる教室』は図書館にも置いていますので、直木賞作家の物語を、ぜひ味わってみてください。

～皆さんにお知らせ～

春休みは一人5冊まで本を借りることができます。この機会にぜひ図書館に足を運んでみてください。



【年間多読賞発表】

貸出上位者

1位	303	高石 大翔	48冊
2位	205	森川 晴仁	35冊
3位	201	末光 大和	28冊
4位	105	矢野 華蓮	23冊



1位 303 高石 大翔 48冊

二年次から虎視眈々と多読賞を狙ってきたので、今回ただけで大変光栄です。私は高校生活で累計130冊以上の様々な本を読んできました。その中でも特に好きな作品を二品紹介します。新書系から藤井一至著『大地の五億年』土と地球を巡る名著です。地学の解像度が爆上がりします。ミステリー系から米澤穂信著『儂い羊たちの祝宴』ブラックな作品であり肝が冷える。それなのに上品に思える文体でその間が際立つ個人的最高傑作です。本の力も相まって受験生の時期を乗り切ることができました。ブックショッピングで読みたい本を入手したり、図書委員長を二年に渡って務めさせていただいたりした松北図書館ならびに関係先生方には感謝の念に堪えません。三年間ありがとうございました。これからも、本とともに。

2位 205 森川 晴仁 35冊

〈おすすめの本〉喜多喜久さんの『真夏の異邦人』は、大学で超常現象研究会に所属している星原俊平の故郷で宇宙人が起こしたと思われる怪事件が起こり、その調査兼合宿に向かう恋愛SFミステリーです。この本の大きな見どころは、俊平の心の成長です。幼少期の出来事がきっかけで好きだったオカルトを否定していた俊平ですが、空から降ってきたユーナという少女に恋をして交流したり、調査の中で自分の好きを追求する人々と交流したりしていく内にオカルトを受け入れ、自分の好きを貫ける人間になっていきます。

自分は自分の好きを貫けているだろうか、と自分自身にも反映させられるような本になっているので、ぜひ読んでみてください。

《図書委員おススメの本 part 8》

書名	作者名	お薦めの理由	図書委員
変な家	雨穴	ホラーとミステリーがあわさった小説で壊れそうなイメージがあるけど、ミステリーの方が強くて「これからどうなるんだ!？」とドキドキする場面が多くて面白いと思います。また、考察のしがいのある本だと思います。	107
伝言猫がカフェにいます	標野なぎ	猫が死んでしまった人の声を生きている人に届けるために奮闘するところ。ところどころにハッと気づかされるところがある。	107
さよならの向こう側	清水晴木	亡くなった人が最後に訪れる場所「さよならの向こう側」。そこでは、案内人と共に最後の再会として1日だけ現世に戻り、会いたい人に会えるのだが会えるのは自分の死を知らない人だけ…。これは5人が織りなす奇跡の物語。	108
蜜蜂と遠雷	恩田陸	この本は、4人のピアニストの話です。本を読んでいるのに、実際にコンクール会場で聴いているかのような表現をぜひ、体験してみてください。	108
むかしむかしあるところに死体がありました。	青柳碧人	昔話をミステリーに少し変えている物語なので元の昔話と比べて読んでみると面白いです。	109
また、同じ夢を見ていた	住野よる	幻想的な構成と読みやすい文章。幸せであたたかい読後感がgood!	109